

教師ノート

日付 2012年 6月17日

単元 サムエル記・2

テーマ 罪を犯してしまったら、素直に告白する

タイトル 罪を告白したダビデ

テキスト II サムエル11-12章

参照箇所 詩篇51篇

暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)

ヨハネ1:9 or 詩篇51:17

AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)

□導入 ダビデは王になりました

サウルとその息子たち(ヨナタンも)はペリシテとの戦いで死にました(第1サムエル31章)。第2サムエル記は、ダビデがサウルの死を聞いて悲しむ記事から始まります。1-2章では、その後、ダビデはまずユダ(南の部族)の王となります。そして5-6章では、全部族を統治し、王国の首都をエルサレムの町に定めます。契約の箱もエルサレムに持ち帰りました。30歳で王になり、40年間、王であったとあります(5:4)。神さまは、ダビデ王を大いに祝福されました。みなさんも、ダビデが、みことばに従う、強くて正しい王様だと知っているでしょう。今日のお話は、ダビデが王になってからおよそ20年経ったころのことです。正義をもって国を治めていたダビデ王ですが、大きな罪を犯してしまいます。

□ポイント1 ダビデは罪を犯しました(11章)

ある夕暮れ時、ダビデが王宮の屋上を歩いていると、ひとりの非常に美しい女性が見えました。ダビデは、その女性を好きになりました。家来に調べさせると、彼女は、バテ・シェバという名で、ダビデの部下であるウリヤという人と、もう結婚していることがわかりました。

※ダビデの罪は…、ウリヤの妻と知りながらバテ・シェバを召し入れた→妊娠した子を夫婦のものと思わせるために、ウリヤを戦地から呼び戻したが、妻のところに戻らないので、彼を戦死させるように仕組んだ…ということです。どの程度詳しく説明するかは、教師が慎重に判断してください。

例①しかし、ダビデは、がまんできず、バテ・シェバを王宮に呼び寄せ、ふたりでひと晩いっしょに過ごしてしまいました。ダビデは、人の奥さんを奪おうとする罪を犯したのです。しかし、ダビデの罪は、それでは終わりませんでした。なんと、ウリヤを激しい戦地に行かせ、わざと死なせようとしたのです。ウリヤはダビデの軍に忠実に仕える兵士でした。まず、ダビデはウリヤを戦地から呼び戻しました。そしてもう一度戦地に送り返しました。その時、ダビデ軍の長であるヨアブに手紙を書き、ウリヤに持たせました。その手紙にはこう書かれてありました。「ウリヤを激戦の真正面に出し、彼を残してあなたがたは退き、彼が打たれて死ぬようにせよ。」ヨアブはその通りにし、ウリヤは戦死しました。これは恐ろしい計画殺人です。ダビデは、バテ・シェバに対する罪をごまかすために、王の権力を利用してウリヤを殺すという、さらに大きな罪を犯したのです。しばらく経ってから、ダビデはバテ・シェバと結婚しました。

例②どうしてもバテ・シェバと結婚したかったダビデは、恐ろしいことを考えました。夫ウリヤが敵に殺されるように、わざと激しい戦地に送ったのです。ダビデは、軍隊の長ヨアブに手紙を書いて、「ウリヤを激戦の真正面に出し、その上で、彼だけ残して他の兵は逃げなさい。彼が敵にやられて死ぬように仕組みなさい」と命令しました。ヨアブはその通りにし、ウリヤは死んでしまいました。これは恐ろしい計画殺人です。ダビデは、奥さんを奪うために、王の権力を利用してウリヤを殺すという、大きな罪を犯したのです。しばらく経ってから、ダビデはバテ・シェバと結婚しました。

□ポイント2 神さまはナタンをとおしてダビデの罪をしめしました(12:1-12)

神さまは、ナタンという人を、ダビデのところに遣わされました。ナタンはダビデに、金持ちの人が、貧しい人の飼っていた大切な羊を取り上げた話をしました(1-4節をよく読んでください)。

すると、ダビデは、その話に出てくる金持ちの男に対して激しい怒りを燃やし、ナタンに言いました。「そんなことをした男は死刑だ！あわれみの心もなく、そんなことをしたのだから、その雌の子羊を4倍にして償わなければならない。」

ナタンはすかさず、ダビデに言いました。「あなたがその男です！」ナタンは神さまのことばを語りました。「主はこう仰せられる。『わたしはあなたを、イスラエルの王とし、サウルの手からあなたを救い出した。さらに、家や奥さん、イスラエル全土さえも、あなたに与えた。それでも少ないというのなら、もっと多くのものを増し加えたであろう。それなのに、どうしてあなたは、わたしの目の前に悪を行なったのか。あなたはウリヤを剣で打ち、その妻を自分の妻にした。あなたが彼をアモン人の剣で切り殺したのだ。』」

□ポイント3 ダビデは罪を告白しました(12:13-31、詩篇51篇)

それを聞いたダビデは、すぐにナタンに「私は主に対して罪を犯してしまいました」と言いました。正直に自分の罪を告白したのです。

詩篇51篇は、ダビデが、この時の悔い改めの気持ちを表現したものです。「私は罪を犯し、悪を行ないました(4節)」「私を洗ってください。そうすれば私は雪よりも白くなりましょう(7節)」「神へのいけにえは、砕かれたたましい。砕かれた、悔いた心。あなたはそれをさげすまれません」・・・と、ダビデは自分の罪を素直に悔改めて祈ったのです。

神さまは正直に罪を告白したダビデを赦してくださいました。しかし、神さまの言われたとおり、ダビデとバテ・シェバの間に生まれた子どもは死にました。

□結論 ダビデは罪を犯しましたが、それを正直に告白しました

□適用 強制的ではなく、愛をもって、悔改めに導きましょう。ヨハネ1:9をしっかりと伝えましょう。

罪を犯してしまったら、ダビデのように正直に告白しましょう。神さまは、必ずゆるしてくださいます(ヨハネ1:9)。(小グループ・分級で告白できない場合は、個人的にお話ししましょう。なかなか告白できない場合は、時間をかけて、十字架の恵みをたっぷり伝えましょう。)イエスさまは、私たちの罪の身代わりに、十字架で命の代価をはらってくださいました。罪がゆるされるということは、すばらしい恵みです。イエスさまの愛を信じて、あなたの心の中にある罪を、今すべて告白しましょう。あなたの心は真っ白になります。必ずゆるして下さるのですから、私たちがすることは、悔改めて告白することだけです。イエスさまの方が先に十字架にかかってくださいましたのです。ですから、あなたが告白せずに、心を閉ざして罪を隠していたら、イエスさまは悲しまれます。正直な心を喜んで受け取ってくださいます。

ダビデは、ひとつの罪を犯して、それをごまかすために、もっと重大な罪を犯してしまいました。これからも、罪を犯してしまったりは、すぐに悔改めのお祈りをしましょう。隠したり、ごまかしたりしようとする、どんどん深みにはまってしまいます。

私たちは、罪を犯してしまうものです。だれでも、悔改め、神さまに赦してもらいながら、少しずつ成長します。教会の先生だって同じです。だから、自分の心に罪があることに気がいたら、いつでも教会の先生にすぐ相談しましょう。あなたの話をやさしく聞いて、一緒に祈ってくれるはずですよ。ひとりで悩む必要はありません。